



施政方針

3月定例会 施政方針

Q 令和8年度予算では多くの事業が継続・推進されている。財政への強い危機認識は、どのように予算に反映されたのか。

A 財政調整基金減少の主因は、人件費や物件費、扶助費などの義務的経費の増加である。持続可能な財政運営を維持しつつ、住民サービス向上を図るため、限られた財源を最大限活用する方針で編成した。



Q 義務的経費の削減が困難であれば、どのように財政を立て直すのか。

A 大きく3つある。

1つめは、第7次行政改革大綱で、企業版ふるさと納税、ネーミングライツ、受益者負担の見直しなど、新たな財政確保策に取り組む。

2つめは、予算の執行抑制をする。

3つめは、国と県の補助金だけでなく、さまざまな補助金も活用したい。また、公益団体への補助金について見直していきたい。



ネーミングライツ募集中の豊山グランド

Q 町長は「豊山町の再生」「未来への責任」を掲げて当選している。行政運営の見直しは就任直後から取り組むべき課題であったと考える。財政再建に向け、いつ、どのような検討を行ったのか。

A 就任直後から部長会議なども含めて話を聞いてきた。令和7年12月に初めて危機的状況だと認識した。歳入を増やすことは難しいので、各部長に対し、補助金の活用や予算執行時の抑制を指示した。



Q 町長が描く豊山町の未来像、想いとは。

A 住民が「住んで良かった」と思える町、財政状況も踏まえながら、誰もが安心して住み続けられる町を目指している。

